

・・・育くみ隊活動は公共施設づくりのコーディネートから人と人との縁結びのコーディネートまで、まるで虹のように、いくつもの色がまざりあう多様な活動です。それに関わるスタッフもまた、年齢、職業、特技、性格など多様。この「なないろ通信」ではそんな育くみ隊に関わる人たちがそれぞれの視点で、育くみ隊活動を紹介したり、最近身の周りで起こった「エンガワ」な出来事、普段考えているおかしなことなどをご紹介します。

まちの縁側大衆・公開ライブトーク編

9月23日秋分の日、森まゆみさんを講師に迎えて縁側大衆が開かれた。会場である撞木倶楽部への道を急ぐ。久しぶりに通る道、途中にある洋服屋さんリニューアルしたことに気づいた。帰りによってみようか、と思いつつ、これから始まる大衆へのわくわく感と、不安感のせいでそわそわしている。不安？それは私がこのレポートを書くことに決まっていたからだ。何せ私の知っている森まゆみさんはすごい人だ。私に書ききる文章力があるだろうか。来れなかった人に今日の先生の授業を充分伝えることができるだろうか。力が足りないと思った。しかしそんな不安は一掃された。先生はすごくわかりやすく、「ホントの言葉」を使って語っていたように思う。『気持ちの良い事が好きな人だ。』『好きな事はとことん勉強する人だ。』こんな私の幼稚な文章でも先生を表現できる気がする。少々前置きが長かっただろうか。まだまだ続く稚拙な文章に言い訳を添えずにはいられない臆病な私なのである。しかし、先生のその「ホントの言葉」はとてもしなやかに響いたのは事実である。「活動を続けるコツは？」という質問の答えも「飽きるのでしょ・・・」なんて言葉で始まる。数々の活動のすばらしい成果があるだけに、かえってその「ホントの言葉」に真摯さをおぼえたのは私だけではないだろう。

今回の授業では、地域雑誌『谷中・根津・千駄木』を創るに至った経緯、続けるコツ、町並みを保存する活動、仲間のこと、人に聞いて書くという『聞き書き』の技術等あらゆることについての深い話が聞けたように思う。その中でも子育てをしたが

ら仕事をしてきた先生に、子どもについてどういう考えているのか大変興味があった。実は私は大学で小学校について研究している。卒業研究の成果イメージとしては、地域に開放された小学校を設計するつもりだったが、逆風にさらされた。酒鬼薔薇にはじまり最近では女兒カッター刺殺事件。また池田小にロシアのテロ。子どもはこんなに恐れられる対象で、そしてこんなに守られなければいけない対象なのだろうか。学生の間際でも一つの研究を発表するにはやはり責任を感じる。正直子どもが恐くて仕方ない。逃げたくなる。先生は、子どもを『さわり難い危ない生き物』という表現をした。しかし私のように恐れている対象としてではなく、もちろん逃げるわけでもない。関係性を絶やさずにその生き物を放牧できる『まち』をつくり守っている。大人はただだ子どもが分からないと放り出すのではなく、子どもを取り巻く環境に責任をもつべきだと感じた。先生は自身のお子さんやスタッフのお子さんについても「エリートではないけれど・・・」と仰っていたが、大きくなられて二代目同士の付き合いや若い人でやっている活動などのお話を伺うと、やはり子育てにおいても見本にしたいと思う。著書に『十歳から二歳までの子どもたちが群れをなして走っていくさまは壮観です。』『たくさん町の人が、子どもたちをかわいがってくれます。』とある。先生の言う、「住人家族・住人兄弟」そんな素敵な関係をつくりあげた、『谷根千』の活動は町づくりとも子育てとも言えると思う。

今回本当にすてきな授業を受けることができた。

とても蒸し暑い日だったが、前に立つ女性はとてもしなやかな印象だ。着ている洋服の生地までサラサラとして気持ちよさそうに見え、私が虜になっていることに気付く。その人柄はとてもしなやかで、おもしろい人だ。そしてすごく勉強家なということもわかった。近代史、風俗史、民俗学などあらゆるものを勉強し、町の地図を頭に入れ路地や曲がり角には全部入ってみる。自分が見習わなければいけないところだと思った。私は「ま、やればできるんだぜ」とやらずにごまかしてきた事がたくさんある。ピンチに立たされるとタバコ箱大ほどの私に良く似た小人が出てきて「自分はネパールの住人だ」と言い張る。「まだ子どもだし頑張らなくても大丈夫だよ」とか悪魔のささやきをする。今回の授業は、大学卒業を目前に迎えた私にとってとても刺激になった。少なくとも自分を恥ずかしいと思ったことは大きいと思う。

さて、幼稚な文章は力不足のまま終わりを迎えたが、訂正文は受け付けません。というのは先生が地域雑誌を続けるコツとして、『補遺』を必ず載せて次も読みたい気持ちにさせる、ということをやっていたので。だってこのレポートがシリーズ化したら困るもの。って「誰も期待してないよ」と事務局長のつぶやきが入りそう。では最後に、森まゆみさん著『「谷根千」の冒険』の文庫本のためのあとがきに、「しかし定本とか、完本というには私たちの活動は〇〇〇・・・」とある。ハードカバーでお持ちの方、文庫本もアツいです。

<名畑恵>



まちの縁側大衆

『ソフト付ハード開発と管理』

—公共空間を市民の親密な交流の場所に育くむ



講師 星野博 (三八屋主宰)
森登
坪井俊和
(NPO法人まちの縁側育くみ隊理事)

場所 撞木倶楽部(旧撞木館・井元邸)

日時 10月8日(金)

- 開場 18:30
- 本題 19:00~21:00
- 交流会 21:00~22:00(実費です)
- 参加費 一般 2,300円
会員 1,800円
学生 1,200円

三八サンデーいちのみや

育くみ隊が第一歩を踏み出した愛知県一宮市の宮前三八市広場で、広場の活用、その先の地域活性化を目指して市民が動き出しました。『三八サンデーいちのみや』と名付けられたこの「まつりづくり」は、まつりの日常化により公共空間の活用、まちの賑わいを取り戻すことを目指しています。仕掛人はまち遊び総研・星野博さん。そう、次回10月8日のまちの縁側大衆<エンギニア養成塾>の講師です。予習のつもりで一度足を運んでみてはいかがですか？詳しくは10月8日のまちの縁側大衆で。

10月3日(日)

フツチモーリ(仮) (プチ杜の宮市)

場所: 宮前三八市広場
時間: 11:00~16:00

アートクラフトマーケット、フリーマーケット、ライブ、セネガルの民族舞踊、フラーアレンジメント教室、地元飲食店の出展、一宮の地ビール販売など。

【問合せ】社の宮市準備委員会 担当・渡辺090-3301-6014

歴史的建造物を巡るイベント

歩こう！文化のみち 11月3日(水)

皆さんご存知のとおり、名古屋市東区には多くの歴史的建造物が残されています。市政資料館、建中寺、徳川園、豊田佐助邸、撞木倶楽部、長屋門・・・その一体を「文化のみち」と呼び、『歩こう！文化のみち』はその建造物を歩いて周ろうというイベントです。各会場では地元市民団体による様々な企画も行なわれます。もちろんまちの縁側育くみ隊も参加します。また、2日には徳川園がオープンします。そちらも楽しみに！

【受付会場】9:00-15:00 市政資料館、建中寺、徳川園 【問合せ】東区役所地域振興課 052-934-1123

【編集後記】

先日、友人の結婚式に出席してきました。幼なじみですがずいぶん会っていなかったの、懐かしさも手伝って思わずもらい泣き。ダメです。ねえ、あの両親へのごあいさつというのは・・・。後の二次会では中学時代の友人が集まり、ほとんど同窓会状態。卒業以来の友だちにも会っておおはしゃぎ。幸せをいっぱいもらってきました。それにしてもキレイな嫁さんだったなあ。<渡辺文紀>

今月の 撞木倶楽部

今年もこの季節がやってきました！まちのあちこちで演劇が熱演されます。秋の撞木倶楽部は劇場にかかります。ぜひ皆さん足をお運びください。

まちななか芸遊祭 (場所: 撞木倶楽部)

- ①10月1、2日(金土) 19:00-
- ②10月16日(土) 14:00-
- ③10月21~24日(木~日) 19:00-

※①②③はそれぞれ講演内容が異なります。詳しくは主催者までお問合せください。

【問合せ】

まちななか芸遊祭実行委員会
事務局長 金子康雄
0561-72-7622

取材情報・投稿・編集スタッフ募集!

こんないい場所、おもしろいネタあります。行ってきました。など取り上げてほしい情報・話題をどんどんお寄せください。また、一緒に編集やってみようという方もご連絡ください。今月もお待ちしています★

『エンガワNo.9<10月号>』平成16年10月1日発行

NPO法人 **まちの縁側育くみ隊** 代表理事 延藤安弘
編集 渡辺・大久保・藤原・鈴木
名古屋市中区代官町1-5 まちの縁側MOMO内
Tel/Fax (052)936-1717
E-mail info@engawa.ws